

# 青森県立弘前高等学校 うじいえ あすか 氏家明日香



私は、東日本大震災の際、福島県に住んでおり、福島第一原子力発電所事故の影響で避難を余儀なくされました。友達と離れ離れになり、自分の家に戻ることもできなくなったため、当時は原子力発電に対する不安がありました。しかし、それまでエネルギーや原子力発電の仕組みを理解していないのに、原子力発電に頼って生活していたということの方が恐ろしいと気づき、書籍やインターネットを活用してエネルギーや原子力発電について学び、知識を深めてきました。

さて、あの福島第一原子力発電所事故以来、原子力発電を危険と決めつけ、排除しようとする人たちが増加しているように感じられます。しかし、その中に原子力発電の「何が」「どのように」危険であるかを自分の言葉で説明できる人は一体何人いるのでしょうか。

今回私が参加した「高校生による海外エネルギー事情研修会」では、原子力発電の技術において大変進んだ国であるフランスとスウェーデンを訪れました。ラ・アーグ再処理工場やフォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設、フォルシュマルク技術高等学校の見学、グリニャール高校とカテドラル高校の高校生との意見交換を通して、原子力発電およびエネルギーに関する知識を深めることができましたものと思っています。

フランスでは、六ヶ所村の原子燃料サイクル施設のモデルとなったラ・アーグ再処理工場を訪れました。私の中で最も印象に残ったのは、日本の施設と比較して、フランスの施設は、自然と調和するような優しい色合いの建物になっているということです。フランスでは、原子力発電を危険なものと認識した上で、あえて人々にとって身近なものになるようにしているということに衝撃を受けました。

施設見学の翌日、フランスのグリニャール高等学校を訪れました。現地高校生とのエネルギーに関するディスカッションでは、東日本大震災や原子力発電に関する意見を、自分の言葉で伝えることができたので、大変満足しています。また、質疑応答では、質問のために多くの生徒が手を挙げたことに非常に驚きました。日本の高校生とのエネルギーに対する意識の違いを痛感させられました。

---

スウェーデンでは、技術高等学校とフォルシュマルク中・低レベル廃棄物貯蔵所を訪れました。フォルシュマルク中低レベル廃棄物貯蔵所は、多くの学生の見学を積極的に受け入れるという説明があり、国民に原子力発電に関する知識を深めてもらうということに大きく貢献している施設だと思いました。

中・低レベル廃棄物貯蔵所見学の翌日、スウェーデンのカテドラル高等学校を訪れました。現地高校生とのエネルギーに関するディスカッションでは、フランスと比べて参加者が少人数でしたが、大変白熱した議論になりました。現地高校生との意見交換を通して、スウェーデンでは国民が自然を大切に捉える傾向があり、将来的に再生可能エネルギーで全ての電力を賄っていく目標があるということが分かりました。

文化面でも、様々な発見がありました。

フランスでは、モン・サン・ミシェルやルーブル美術館、エッフェル塔などを見学しました。全ての景色が私にとっては魅力的に感じられました。特に印象に残っているのはルーブル美術館です。まるで美術や世界史の教科書の中に入り込んだかのような不思議なあの感覚は、実際に訪れないと味わうことができない大変貴重なものだと思います。

フランスのグリニャール高校とスウェーデンのカテドラル高校で行われた文化交流では、縁日を再現したり、書道を披露したりしました。私は、縁日ではくじ引きを担当しましたが、現地高校生が自分たちの欲しい景品を当てるためにくじ引きに熱中しているのを見て、企画して良かったと嬉しく思いました。また、現地の高校生は、見た目は私たちよりはるかに大人びていますが、無邪気な一面もあるということに面白さを感じました。書道パフォーマンスでは、現地高校生の名前を漢字の当て字で表現しました。例えば、「ステラ」であれば、「素敵良」と書きました。有難いことに書道パフォーマンスは、大変人気で、私一人で何十枚も書くという状況になりました。

（さて、私たち日本人が、他国語で自分の名前を表現されたとしても、正直、あまり感動はしないと思います。それを考えると、書道や漢字には何か特別な魅力があるのでしょうか。）

---

全ての日程を終えて、今回の研修会が自分にとってとても充実したものになりました。それは、「安易な妥協はしないこと」「自分の目を見て、自分の言葉で伝えること」が達成できたからです。事前研修では、自分が納得いくまで何度も修正してより良いものを作り上げ、そして現地では失敗を恐れずに、自分の目を見たものを自分の言葉で伝えることができました。

私の将来の夢は、アナウンサーになることです。今回の研修会を通して、自分のコミュニケーション能力と表現能力に大変自信がつけました。また、元々持っていた、言語への強い興味がさらに強まったことを実感しています。

この経験を生かして、大学ではエネルギーに関する研究をし、既存のエネルギーとは異なる新しいエネルギーを生み出したいと考えています。そして、研究したエネルギーの知識を報道の現場で活かすことを目標に、日々精進することを誓います。

最後になりますが、今回の研修会において後悔することは一つもありません。この研修会に参加できたことに本当によかったです。家族、学校の先生方、今回の研修で協力していただきました、たくさんの皆さまに感謝しております。ありがとうございました。

